

全園でできるわさくわさく土壌を入手。コンクリートブロックで階段を造り、緑のカーペットを敷き、花や実が楽しめる木で庭に季節感を出す。

「緑いっぱい」の階段は毎日歩くのが楽しくて」

宮田生美さん（コンサルタント）55歳 東京都



花や実が楽しめる木で庭に季節感を出す。

●アイカスツバの葉の緑が鮮やかで、花は白く、実が赤く、花や実が楽しめる木で庭に季節感を出す。



花や実が楽しめる木で庭に季節感を出す。



ベランダの緑が
暮らしに安らぎを添えて

金網のすき間から
ティガカスラがツルを伸ばす

音の訪れとともに
緑に包まれるアブローチ

- ティスのひとまわり小さな「フトンカゴ」を配して。ベランダにも緑を取り入れた。
- 生美人さんが寄せ植えをしたベランダの「フトンカゴ」。緑を中心にナチュラルに。
- アブローチにかぶさるように茂るサンシュユやハギ。日本を原産とする植物を多く使い、のどかな里山の風景に近づけている。
- アブローチの中央に設けたコの字型の張り出しはグレーの砂利敷き。ステップや花壇の縁にはウッドを使ってお庭に馴染ませる。
- 「誰かが育つ木の芽は、和食に彩りを添えるのにぴったりなんです」と生美人さん。
- 土木工事に使われているかごを改良したコンテナ「フトンカゴ」。形状大きさは設置する場所に合わせて選べる。
- 玄関側から眺めた5月のアブローチ。
- 軽量の保水力に優れた人工土壌「アクアソイル」。屋外では、通常の雨水だけで十分に植物が育つので、水やりの必要がない。
- アブローチに掛かる水々のやわらかな緑。
- 原産の緑にティガカスラのツルが伸びる。わずかなすき間を有効に使って植栽。
- 隣家との間に横張りフェンスを。近づくことなく自然に仕舞いこむように。

宮田邸 DATA	
所在地	東京都大田区
敷地面積	120㎡(35坪)
完成年月	2001年8月
竣工	3日間
費用	200万円
設計	プランタゴ(田嶋建夫)
施工	S×緑研研究所
撮影時期	2004年5月



「マンション暮らしでは気づかなかった四季を、肌で感じられるようになったのがうれしいですね」と生美人さん。以前より暮らしがぐんと豊かになりました。

金網でつくった立方体のかごに、人工土壌を入れた「フトンカゴ」というコンテナを使った施工は、わずか3日で終了。1年ほど経つと、庭一面すっかり緑で覆われることになりました。サンシュユなどの花壇を中心に植えた庭は、春に安らぎを、つせいに新芽が顔をのぞかす。

「庭を歩く、きれいな空気が感じられるんです」と生美人さん。緑が少ない都心ではとても貴重な体験です。敷地内に建てた家のアブローチは、もともと地面と階段がコンクリートで固められた味気ないものでした。そこで「日々の暮らしのなかで、ほっとできる場所をつくりたい」と庭づくりを依頼したのでした。